

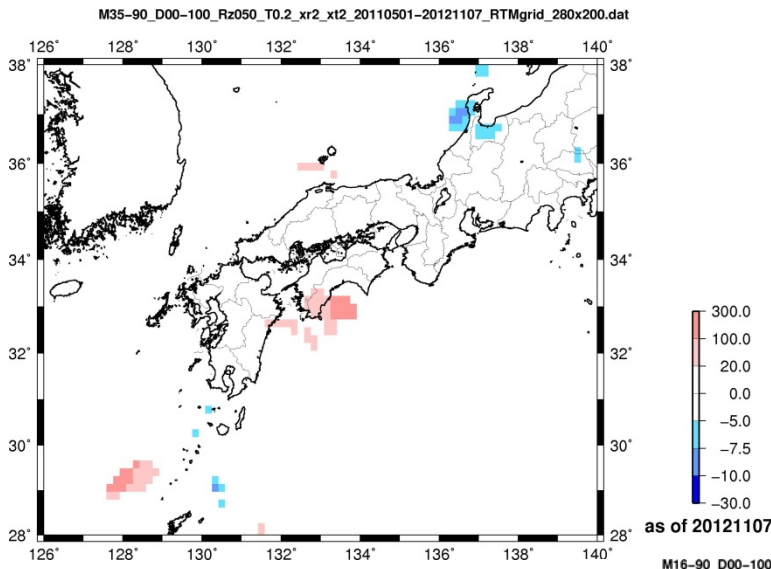
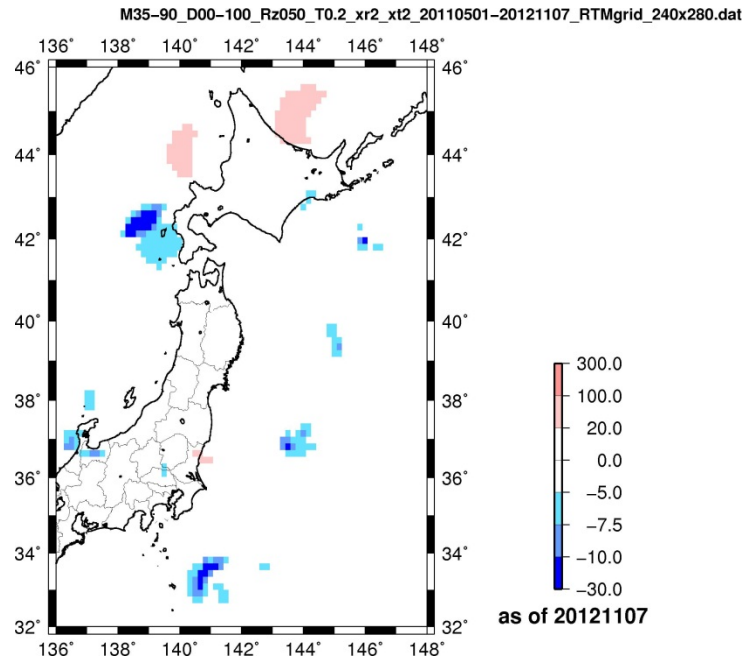
1 1月7日時点の広域の地下天気図 (M7クラスを対象)

7月の解析から約4ヶ月経過してしまいましたが、最新の広域の解析結果をお知らせします。右と下の図は主に海域でのM7クラスの発生可能性について解析しています (使用した地震はM3.5以上)。

1月7日時点では、東北日本および西南日本に顕著な広域の静穏化 (図中の青い領域) は観測されていません。

陸域では、北陸地方のみに少し静穏化領域が確認されます。これはこれまで何回かお知らせしてきた富山県周辺の異常が、解析対象マグニチュードを変えても (より大きな地震を解析対象としても) 検出されるという状態ですが、その広がりはいささか小さいもので、緊急性はまだ低いと思われます。

西南日本でも異常な領域は広がっておりません。さらに全国的に電磁気学的な先行現象と考えられる短期的な変化は観測されていません。



右の解析は解析対象とした地震をより小さなもの (使用した地震はM1.6以上) にした場合です (毎月お示してきた解析)。この解析は陸域に限定したものです。やはり京都周辺の異常が気になりますが、まだその継続時間が3ヶ月ほどですので、発生してもM6程度と考えています。

これまでの経験則では、静穏化が半年以上継続するとM7クラスの地震が発生する可能性が高くなると考えています。

